



1. ハナモモアロマを制作するため、ハナモモの花摘みを行いました 2. 公方の森が散策しやすいように笹刈りが行われています 3. 富士見塚に登る親子 4. 広場を無邪気に遊んで公園の自然を満喫 5. ハナモモがきれいに咲くように桃の実の摘果が行われています



ハナモモと公園の風景を支える人たち

公園を桃色に染めるハナモモ、蓮池一面に大輪を咲かせる大賀ハス、公方の森の色鮮やかな紅葉、マコモやヨシ原の冬枯れなど、四季折々の豊かな自然が楽しめる古河公方公園。

この公園の風景や魅力を後世に残すために活動する人たちや取り組みを紹介します。



古河公方公園づくり円卓会議



市民と共につくる魅力ある公園に
2003(平成15)年に市では、市民・行政・管理者と一緒に公園づくりへの思いや知恵と力を結集させる場として円卓会議を始めました。この円卓会議では、公園が市民にとって身近なものになるよう、公園のあり方や魅力の高め方をみんなで議論し、活動に取り入れています。
その結果、野外での読み聞かせや芸術教室などの自主的な活動が行われるなど、公園の魅力を高める市民の取り組みが年々増えています。



市民に愛され続ける場所として
古河公方公園の風景は、地域の人たちの思いや情熱によって守られてきました。
市では、地域の人たちと共に公園づくりを進める「古河公方公園づくり円卓会議」を中心に公園の発展につながる活動を市民と協働して行っています。
昨年11月には「古河公方公園づくりフェスティバル」が開催されました。公園利用者と円卓会議と一緒にイベントをつくりあげること、利用者自身に公園に関わることへの楽しみが目芽えるようになりました。
このような利用者が少しずつ増えることは、公園の風景を守り続ける原動力となり、次世代へとつながっていきます。そして、「私たちのふるさと」古河公方公園の風景が、これからも多くの人の思いと共に受け継がれていきます。

自然豊かな公園を後世に

約10年前から公園の管理に携わっており、15人のメンバーと一緒に樹木の剪定や芝刈り、園内の修繕を行っています。

活動を始めた当初、公園づくりに情熱を注ぐメンバーと共に活動することができ、とても勉強になりました。その意思を継いで、散歩道路や広場の芝を短く保つなど、公園を利用する市民にとって使いやすいように丁寧な作業を心掛けています。

公園が今後とも愛され続けるためには、公園を利用する市民一人一人が、より良い公園を作りたいという思いを持つことが大切だと思います。みんなで使う公園をみんなで守り、豊かな自然の中でのびのびと楽しめるこの公園を今後も残していきたいです。



山本久男さん(77歳・三杉町)

市民と公園をつなぐきっかけづくりを

御所沼復元をきっかけに、昔の原風景を後世に残していきたいと考えるようになりました。

円卓会議に参加し、主体的に関わることで気付いたのは、市民に公園の魅力が伝わっていないということでした。

そこで企画したのは、寿星桃の実の摘果作業です。寿星桃の実は熟しても落ちないため、樹勢が落ちたり花芽がつきづらい

など、桃の木に不具合を起こします。それを防ぐため桃の実を摘果するボランティアを集め、みんなで楽しみながら作業するイベントを実施しました。これが公園に愛着を持ってもらうきっかけになればと思っています。

今年も6月に桃の実の摘果を行いますので、一緒にやってみませんか？ 公園の意外な一面が見られるかもしれませんよ。



川田いつ子さん(70歳・鴻巣)